

## 用意するもの

- 耐水サンドペーパー  
(80~120番、320~600番、  
600番以上の3種類ぐらい)



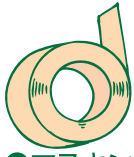
●サンディング  
ブロック

●バケツ

●布切れ



防錆  
スプレー

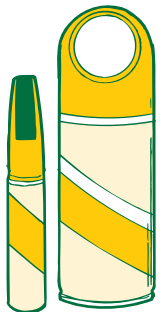


●マスキング  
テープ

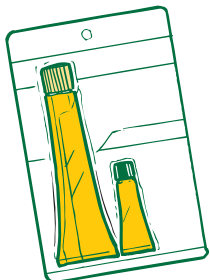


●新聞紙

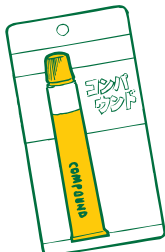
- 防錆スプレー  
(サフェーサー、  
プラサフ等)



- 自動車用塗料  
(ボディペン、  
マイカースプレー等)
- ぼかし剤



●補修パテ



●コンパウンド

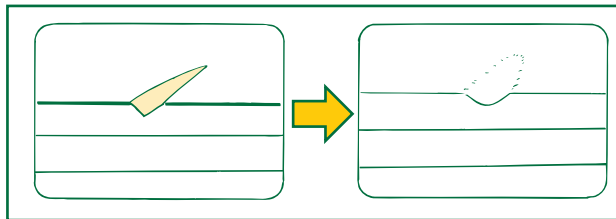


●セーム皮

## ここがポイント!

### ちょっとしたこすりキズにはコンパウンド

木の枝にこすったりしてボディにすりキズがついた場合は、まず細目のコンパウンドをネルのような柔らかい布にとり、キズが目立たなくなるまで擦りこんでいきます。次に極細のコンパウンドで同じように表面に光沢が出るまで磨いていくと、すりキズは消えます。作業後はきれいな布でコンパウンドを拭きとってください。駐車場でちょっと車にこすられたというようなキズも目立たなくなります。



(社)日本DIY協会認定DIYアドバイザーが、ご質問にお答えいたします。  
お気軽にお声をおかけ下さい。

### サービスのご案内



配達・かん便 切り売り商品 修理



返品・交換 表札・額の受注 スペアキーづくり

- クレジットもご利用になれます。



ホームセンターセキチュー

制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部  
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

TEL.027-345-1111(大代表)

# 愛車のボディ補修

自分でやってみよう!

セキチュー  
How To D.I.Y

80



修理屋さんに頼むほどでもないような、と言ってそのままにしておくとまずいボディの小さなキズや凹み、塗装のはがれなども、気にしはじめるとそこにばかり目がいってしまいます。そういったものはなんとか補修できますので、自分でやってみましょう。プロにかかると何万円もかかるようなキズが、その約10分の1ぐらいの予算でできます。

# 軽いへこみやキズは自分で補修しましょう

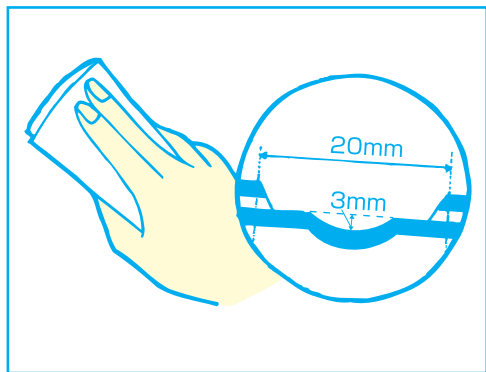
## 軽い凹みキズ

車の凹みは広さ20×20、深さ3mmぐらいまでなら自分で補修できます。天気がよく、風の無い日を選んで、ていねいにやるのがコツです。ただメタリック車は塗装の際に色むらが出ることもありますので、上塗り用のクリアーも必要です。

## 補修の順序

### 1 車をきれいにする

洗車をして車についているドロやほこり等を落とし、補修する部分やそのまわりの水分を、乾いた布やセーム皮できれいに拭き取ってください。さらに補修する部分とその周辺を洗剤をつけた布できれいに拭きます。これは塗装面のワックス分を取り除き、補修パテや塗料のりを良くするために必要なので必ず行ってください。



### 2 サンドペーパーをかける

補修部分より3cmぐらい広い範囲に100～120番ぐらいのサンドペーパーをかけてください。サビが出ていたり塗装がはがれてきている場合は、ていねいにサンドペーパーをかけて、きれいに落としましょう。

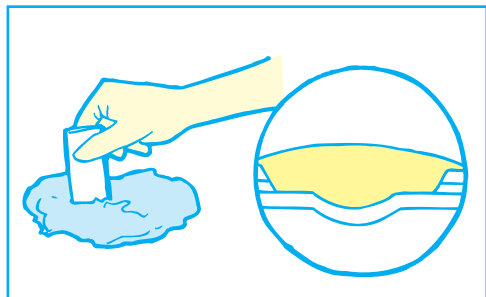
### 3 補修パテを練る

補修パテを容器の中でよく混ぜ合わせてから、板の上に取り、これに硬化剤を適量入れて、色が均一になるまで付属のヘラでよく混ぜ合わせます。硬化剤を混ぜたパテはすぐ固まりはじめるので手早く作業をするようにしましょう。また硬化剤を入れすぎるとすぐに固まるので注意してください。



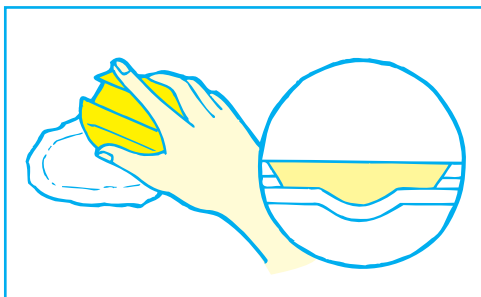
### 4 凹みを補修パテで埋める

混ぜた補修パテをヘラに取って、凹んでいる部分にこすりつけるようにして塗りこんでいきます。パテに気泡が入らないように、ヘラで何回か練るようにして塗りつけてください。パテの量は、後でサンドペーパーをかけるので周囲より多少盛り上がる程度にしておくといいでしょ。この後完全に硬化するまで2～3日待ちます。



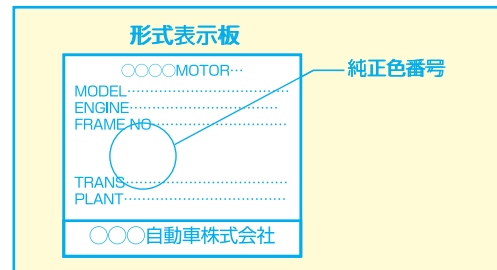
### 5 サンドペーパーをかける

完全に硬化したら80～120番ぐらいのサンドペーパーで荒削りしてから、だんだん目の細かいサンドペーパーを使って形を整えていきます。サンディング・ブロックを使うと効果的です。仕上げは320～600番ぐらいの耐水サンドペーパーに水をつけて、パテで埋めた部分とその周辺を水研ぎします。手でさわって凹凸やザラザラしているところがなくなったら完了です。



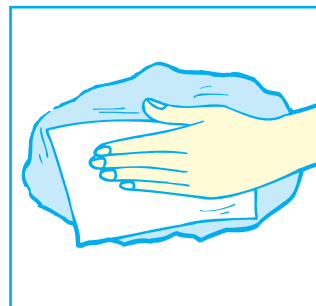
## 塗装の順序

塗装するときは、見た目だけで色合わせをしないで、事前に純正カラーナンバーを調べ、必ず色見本で確認しましょう。純正カラーナンバーはエンジンルーム内の形式表示板やシールに表示されていますが、車種によっては場所が異なっていたり、表示されていないこともあります。その場合はディーラーや販売店に尋ねてください。



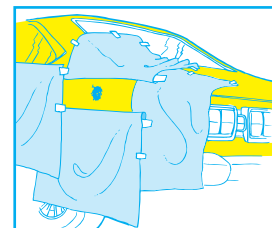
### 1 新車時の色を出す

日焼けやワックス、汚れなどを落とすカラーカットをスプレーして、よく布で磨いてください。



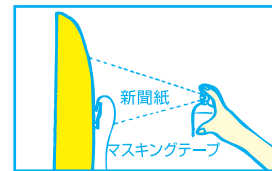
### 2 マスキングする

塗料がついたら困るところは新聞紙やマスキングテープでおおいます。車の塗装は色焼けや汚れで変色しているので、車種に合った色の塗料を選んで、色が多少違いますので、ボディに部分的に塗装する場合は、パテ埋めた部分の4倍以上の面積に塗装しますので、マスキングもそれに合わせて広めに塗装面を取ってください。



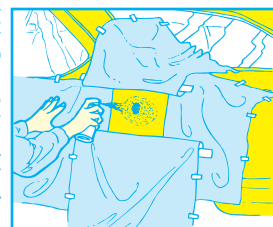
### 3 防錆塗料を塗る

防錆スプレーをよく振ってからスプレーします。これが乾いてからもう一度600番以上の耐水サンドペーパーに水をつけて水研ぎをしておきます。



### 4 自動車用塗料を塗る

スプレーをよく振ってから、塗る面から25～30cmほど離して、スプレーを平行に移動させながら、薄めにスプレーしていきます。まずパテ埋めた部分に薄く塗り、乾燥させてから今度は前より広い範囲に塗っていくという作業を繰り返してください。1回目は表面が少し濡れているという程度に薄く塗り、充分に乾かしてからまた塗るというようにするとまよくいきます。スプレーの吹き出し口は1回塗るごとに布で塗料を拭き取るようにしてください。



### 5 ぼかし剤を塗る

塗料が充分乾いてから、その境目に薄くぼかし剤をスプレーしてください。境界がなじんであまり境目が目立たなくなります。



### 6 コンパウンドで磨く

塗装が終わったらていねいにマスキングをはがし、1日以上そのままにしておきます。その後1000～1200番の耐水サンドペーパーに水をつけて磨き、コンパウンドで磨き上げましょう。塗装面は上手に仕上げ塗りをして、ザラつきが残っていますが、布にコンパウンドをつけて力を入れて磨いていくと、だんだんとボディが滑らかになっていきます。補修した部分が均一に仕上がったらもう一度別の布できれいに拭き、ワックスをかけて最終の仕上げをします。(ワックスのかけ方は当社発行のハウツーペーパーNo99「洗車とワックスがけ」をご覧ください)

